

# ふるさとのお話

## 平成二三年夏 大野山の話

曾我部初次郎（九十四歳）さんより聴く

私が小若衆（二六、一七歳）のころ。まだ満州に行く前のころですが堂ヶ平に権現様をあげました。二体をそれぞれ別ルートで四人程であげました。一体は上之成、もう一体は中之成、柿之成を通るルートです。道がたいへん悪く苦勞して今ある位置まであげ合流しました。愛媛鉾山が閉山したのは権現さんを負いあげた後だったように記憶しています。別子銅山のように良質の銅は出なかつたものの銅や鉄鋼石が採取されておりました。それを索道を使い中継して落ちのあたりまでおろし団栗林（今の栗林）をとおり中萩駅までトロッコにて搬出していました。私の家は上之成にあり十人程の同級生がいました。屋号はキトラ、大同、タダヤスがありました。そのころはサラヤシキと言いました。その子孫の方々は西条の大町や大生院に下山されました。山での生活では上之成が一番上の集落でして水については集落の上下と東に小さな川がありそれを一度水槽に集めて各家庭の大きな水瓶に移し、生活用水にしていました。米は大生院

から持ってあがり、麦や野菜などは集落で栽培していました。今と違い山は豊かで黒森の辺りには雑木がしげり山菜などたくさんとれました。猪なども下りてくることはありませんでした。小学四年までは中之成の分校に通いその後は、長い時間をかけて岸影の小学校まで歩きました。また水は水槽に溜めるまでに土管を通すのですがよく草などで詰まるので掃除をしたものです。上之成には大きなコガノキがありお薬師さんがまつられていました。お薬師さんの裏にはお塚があり秀吉の四国征伐の際、高知より金子守へ加勢するため山を越えて来た長曾我部がたの片岡という将が戦に敗れ大野山を通り高知に落ち延びようとしたが、山を越える余力がなく上之成にて将兵の武器を集め埋めました。それが上之成にあり「おとのさま」と言われていました。「おとのさま」には当番をきめて常夜灯を灯し氏神様のように崇め奉っていました。そこでは盆踊りやお祭りなどがよく行われていました。今はそのお塚を稲荷山へと下ろし四月の桜の頃に祭礼を行っています。私も毎年、息子達に頼みロープで引いてもらい参拝しています。かつて上之成のコガノキの木から薬師堂のあたりには五輪塔が建っており石には元禄の元号が彫られていました。今

### えひめの身近な巨樹・名木調査書

No. 20-34

1. 樹種名 大野山のカゴノキ
2. 樹高 13.0 m 胸高幹周 590 cm
3. 樹齢 不詳

#### 樹種の特徴（解説）

クスノキ科ハマビワ属。常緑高木で暖かい地方に生える。雌雄異株で8~9月 小さな黄色の花が咲く。灰褐色の樹皮は成長すると剥がれて斑紋ができるが、さらに老木になるとデコボコ状になる。名は成長期に樹皮が鹿の子模様になることから由来するが、コガノキとも呼ぶ。

#### 4. 歴史的背景

途中の山道には、ところどころ畑や家屋の石組みが残っている。カゴノキの近くには、昔神社があった形跡があるが竹やぶになっている。地元では、「コガノキ」という名にこだわり、山主でコガノキの近くに住んでいた方を代々「コガ兄（ニイ）」と呼んでいる。文化財級の巨樹であるが、山深いため周辺の整備管理が大変という。

①樹 勢：山中に取り残され、巨樹でありながら周りの樹木との競争に苦戦しているようだ。

②保全状況：山深く人の手が届きにくい、地元の有志が動き始めている。

※『愛媛の名木』のページより引用



大野山 上之成のカゴノキ 手前朽ちた薬師堂屋根

も石は探すと見つかるかもしれません。